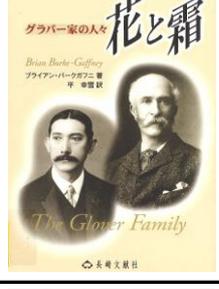


郷土学習セット「4-2 一般向け 長崎の人々」から6冊を紹介します。

4	<p>『古賀十二郎 長崎学の確立にささげた生涯』 (長崎人物叢書)</p> <p>中嶋幹起／著 長崎文献社</p>	<p>生まれ育った長崎を愛し、生涯を長崎史研究に捧げ、長崎学を確立した古賀十二郎の生涯を、多彩な資料から読み解き、古賀十二郎の親族から思い出話を聞き取って記した一冊です。</p>	
5	<p>『シーボルト』 (人物叢書) 新装版</p> <p>板沢武雄／著 吉川弘文館</p>	<p>シーボルトといえば日本人の多くが名前くらいは知っているのではないのでしょうか。この本は、シーボルトが日本を科学的に研究し、その成果を世界に発表することに生涯うちこんだことに焦点を当てながら、シーボルトの一生について書かれています。</p>	
10	<p>『幕末の外交官 森山栄之助』</p> <p>江越 弘人／著 弦書房</p>	<p>長崎のオランダ通詞であった森山栄之助は、日米和親条約を始め、幕末の諸外国との交渉に立ち合い、条約締結に大きな役割を果たしました。本書は「森山多吉郎日記」をはじめ多数の資料をもとに森山栄之助の生涯を記した1冊です。</p>	
18	<p>『花と霜 改訂版 グラバー家の人々』</p> <p>ブライアン・バークガフニ／著 平 幸雪／訳 長崎文献社</p>	<p>日本の近代化に大いに貢献したトーマス・ブレイク・グラバーと、その息子で、父とともに長崎の発展の歴史に影響を与えた倉場富三郎の一生、そしてグラバーファミリーの秘話についての本です。著者はブライアン・バークガフニ氏です。</p>	
27	<p>『大浦慶女伝ノート』</p> <p>本馬 恭子／著 本馬恭子</p>	<p>幕末から明治にかけて日本茶の輸出で貿易商として多大な利益を収めた大浦慶は、長崎市油屋町に生まれました。数え年57歳で生涯を閉じています。残された史料から確認された大浦慶の実像、茶貿易、遠山事件と呼ばれる詐欺事件の真相などから大浦慶という女性の姿を描きます。</p>	
37	<p>『梅屋庄吉と孫文 盟約ニテ成セル』</p> <p>読売新聞西部本社／編 海鳥社</p>	<p>1868年(明治元年)に長崎で生まれ、香港で写真館を営んでいた梅屋庄吉は、中国の革命家である孫文と運命的に出会います。梅屋庄吉の誕生から、孫文との出会い、梅屋庄吉の一生をたどります。</p>	